

自然と文化科「大津市内巡り」活動記録

日時	2024年1月26日(金) 10:15~14:30	担当者
場所	JR 大津駅→大津事件碑→平井酒造→大津城石垣→琵琶湖疎水→大津絵の道→スカイプラザ浜大津周辺で昼食→曳山展示館→八百興→JR 大津駅	文：青木恵美子 写真：青木 茂
備考	参加者数 1班 16名 2班 17名 3班 15名 4班 12名 合計 60名 曇	

JR 京都線の遅延で1・2班 10:15分、3・4班 10:45分出発となった。午前中、時より雪がちらつく寒いなか各班「古都大津観光ボランティアガイド」の方々に案内していただいた。

〈午前〉

・大津事件碑

昔の雰囲気をもった街道の片隅に1891(明治24)年5月11日来日したロシア皇太子(のちのニコライ2世)が護衛の巡查津田三蔵に斬りつけられた場所を表す石碑がひっそり立っていた。



・大津城石垣

関ヶ原の戦いの後、廃城となった大津城の石垣の一部が残されている。この石垣は穴太積といわれ、野面積みの一つである。非常に堅牢な石垣と知られ、安土城や聚楽第などの石垣にも使われた。

・琵琶湖疎水(大津閘門)

大津閘門は、明治20(1887)年に起工して明治22(1889)年完成した。閘門主要部の構造は煉瓦造りである。南側に船を通行させる水門が設けてあり、北部に堰門(制水門)が設けてある。



・大津絵の道(旧江若鉄道跡)

江若鉄道の廃線時、遊歩道に改修された。道沿いのあちこちに代表的な大津絵が飾られていた。

大津絵は、江戸時代初期に東海道の大津の宿場(現在の大津市大谷町・追分町)で職人たちが旅人に土産物・護符として描き売ったのが始まりだといわれている。当初は神仏画であったが人物なども描かれるようになった。「藤娘」や「鬼の念仏」などの絵柄が有名である。



〈午後〉



・曳山展示館

江戸時代から約400年続く大津祭を紹介している。13基の曳山、それぞれがテーマに沿った「からくり」を披露するらしい。高さ約6メートルある実物大の曳山が展示されており圧倒された。

・八百興

嘉永3(1850)年創業。聖護院蕪の元祖である近江蕪や瓜・胡瓜・西瓜の粕漬(ながら漬)で有名である。看板はケヤキの一枚板である。

〈所感〉

JR 大津駅周辺は今まで訪れる機会がなく、通り過ぎていた。今回、市内を巡り歴史の一端を知る事が出来てよかった。レトロな雰囲気の商店街・独特なタッチの大津絵・豪華な曳山など心引かれるものがたくさんあった。大津祭り開催の時期に再度訪れたい。

